

国庫補助金事業に伴う

奈良田遺跡・奈良井遺跡

発掘調査概要報告書



2000年3月

四條畷市教育委員会

四條畷市歴史民俗資料館

国庫補助金事業に伴う

奈良田遺跡・奈良井遺跡
発掘調査概要報告書



2000年3月

四條畷市教育委員会

例　　言

1. 本書は、四條畷市教育委員会が平成11年度国宝重要文化財等保存整備費補助金事業の交付を受けて担当実施した市内遺跡発掘調査等（四條畷市岡山所在の奈良田遺跡と中野所在の奈良井遺跡）の概要報告書である。
2. 奈良田遺跡は平成11年12月18日に着手し12月22日まで調査を実施した。
奈良井遺跡の調査は平成12年1月8日に着手し1月11日まで現地調査を行い平成12年3月31日に整理作業を終了した。
3. 調査は、四條畷市教育委員会文化振興部生涯学習推進室主任 野島 稔・技術職員 村上 始を担当者とし、補助員として井上大輔があたった。
4. 現地調査の実施にあたっては、上村武子・井沢ハウジング各氏から数々の配慮を得た。記して感謝する次第である。
5. 発掘調査の進行については、大阪府教育委員会文化財保護課の指導・助言を得た。記して感謝の意を表したい。
6. 出土遺物の整理・実測などについては、野島 稔、村上 始、佐野喜美、田伏美智代、斎藤佐智子があたった。
7. 本書の執筆は野島 稔が行った。

本　文　目　次

例　　言

第1章　遺跡の位置と歴史的環境……………1

第2章　調査にいたる経過……………5

第3章　調査の成果　奈良田遺跡……………7

　　奈良井遺跡……………14

第4章　ま　と　め……………23

報告書抄録

図　版

図版目次

- 図版1 奈良田遺跡 調査区・遺構検出状況
- 図版2 奈良田遺跡 曲物井戸検出・曲物井戸完掘状況
- 図版3 奈良田遺跡 曲物井戸完掘・土器出土状況
- 図版4 奈良田遺跡 石鏡出土状況・曲物井戸内出土遺物
- 図版5 奈良井遺跡 遺構完掘・大溝内土器出土状況
- 図版6 奈良井遺跡 大溝内土器出土状況
- 図版7 奈良井遺跡 大溝内土器出土状況
- 図版8 奈良井遺跡 大溝内出土遺物
- 図版9 奈良井遺跡 大溝内出土遺物
- 図版10 奈良井遺跡 大溝内出土遺物
- 図版11 奈良井遺跡 大溝内出土遺物
- 図版12 奈良井遺跡 大溝内出土サクラ原木・焼木

挿入目次

第1図 奈良田遺跡・奈良井遺跡周辺地形遺跡分布図	2
第2図 奈良田遺跡調査区位置図	6
第3図 奈良井遺跡調査区位置図	6
第4図 奈良田遺跡遺構配置図及び断面実測図	9・10
第5図 奈良田遺跡曲物井戸実測図及び井戸内出土遺物	12
第6図 奈良井遺跡遺構配置図及び断面実測図	15
第7図 奈良井遺跡大溝内出土遺物	18
第8図 奈良井遺跡大溝内出土遺物	20
第9図 奈良井遺跡大溝内出土遺物	21
第10図 奈良井遺跡大溝内出土遺物	22

第1章 遺跡の位置と歴史的環境

四條畷市は大阪府の北東部に位置する。四條畷市奈良田遺跡は大阪府四條畷市岡山に所在し、奈良井遺跡は中野に所在する。

当遺跡は飯盛山系の西側斜面から派生する洪積層の海拔25~30mの忍岡丘陵である。東西に谷地形をなし、飯盛山系から西に向って、讚良川・清滝川・権現川が流れている。

生駒山系の西側斜面の枚方台地は、北は八幡丘陵から南は南野丘陵までの淀川左岸にひろがる広大な丘陵、段丘があり、北から枚方市船橋川・穂谷川、交野市天野川・寝屋川市寝屋川、四條畷市讚良川・清滝川という中小河川によって開かれている。この枚方台地は、原始・古代における幾多の遺跡の存在が知られている。

旧石器時代

四條畷市周辺の旧石器時代の遺跡として、更良岡山遺跡の範疇である讚良川床遺跡では、ハンドアックス・ナイフ形石器・細石器・削器・彫器などが出土している。また、JR忍ヶ丘駅の南側にある南山下遺跡で長さ11cmの完全な有舌尖頭器が出土し、四條畷市忍岡古墳付近・寝屋川市打上でナイフ形石器が採集されている。これらは枚方台地における旧石器研究上きわめて重要な位置をしめている。

縄文時代

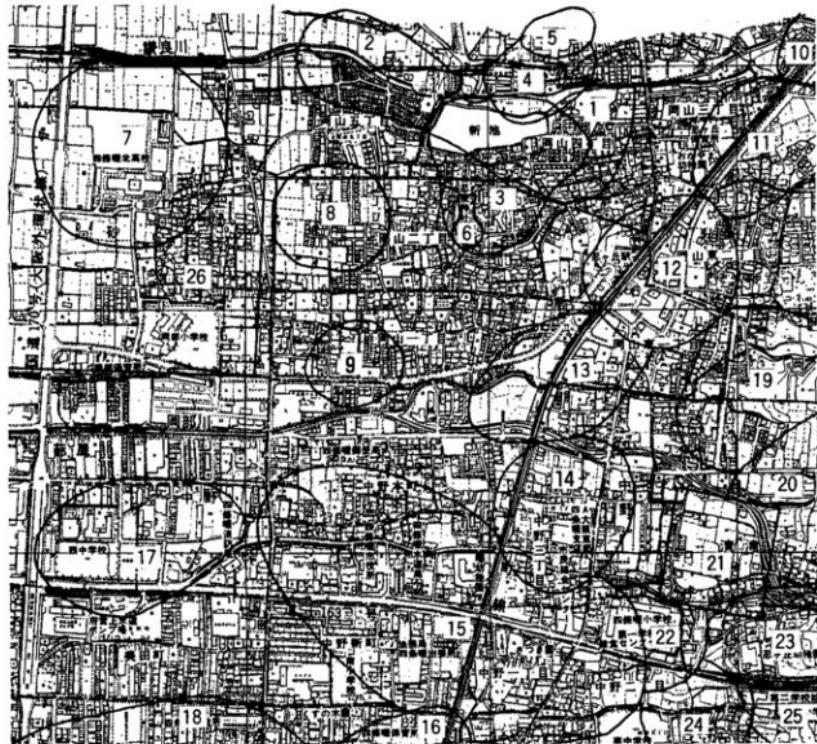
縄文時代においては、近年遺跡が多く発見されてきた。四條畷市田原遺跡や、交野市神宮寺遺跡、枚方市穂谷遺跡で米粒文・山形文を施した縄文時代早期の押型文土器などが出土している。これらは近畿地方における最古型式の土器である。

縄文時代中期は、四條畷市南山下遺跡・砂遺跡、寝屋川市讚良川遺跡がある。讚良川遺跡では大量の船元式土器が出土した。

後期・晩期においては、四條畷市更良岡山遺跡で土偶・彫刻石棒・ヒスイ製石斧・土製勾玉などの祭祀具をはじめ高杯形土器・深鉢・注口土器などの土器類と多量の石器類が出土した。他に四條畷小学校内遺跡や大上遺跡で土器類や石鏃が出土している。

弥生時代

四條畷市雁屋遺跡で弥生時代前期の大壺（高さ78cm）が出土している。この大壺は北九州の板付Ⅱ式といわれているものである。その壺に伴い石庖丁が2点出土した。その



- | | | | |
|-----------|---------------|------------|----------------|
| 1. 更良岡山遺跡 | 2. 讀良川遺跡 | 3. 更良岡山古墳群 | 4. 讀良川床遺跡・讀良寺跡 |
| 5. 三味頭遺跡 | 6. 忍岡吉埴 | 7. 砂遺跡 | 8. 北口遺跡 |
| 9. 荘良田遺跡 | 10. 国守遺跡 | 11. 坪井遺跡 | 12. 忍ヶ丘駅前遺跡 |
| 13. 南山下遺跡 | 14. 荘良井遺跡 | 15. 中野遺跡 | 16. 南野米崎遺跡 |
| 17. 錄田遺跡 | 18. 雁屋遺跡 | 19. 岡山南遺跡 | 20. 清滻古墳群 |
| 21. 正法寺跡 | 22. 四條畷小学校内遺跡 | 23. 大上古墳群 | 24. 木間池北方遺跡 |
| 25. 城遺跡 | 26. 讀良郡条里遺跡 | | |

第1図 奈良田遺跡・奈良井遺跡周辺地形遺跡分布地図

うちの1点は奈良県耳成山の流紋岩製である。この石庵丁の出土は北河内で最初に稻作が開始されたことを示している。なおこの調査区の50m東で縄文時代晩期末の深鉢が出土している。その他、前期の遺跡は四條畷市田原遺跡、四條畷小学校内遺跡、寝屋川市高宮八丁遺跡、大東市中垣内遺跡がある。

中期においては、畿内第Ⅱ様式の時期に出現する高地性集落の寝屋川市太秦遺跡がある。畿内第Ⅲ～Ⅳ様式では拠点的集落であった四條畷市雁屋遺跡がある。雁屋遺跡で多数の方形周溝墓が確認され、コウヤマキ・ヒノキ・カヤなどの木棺が出土した。なかで

もコウヤマキ製のものは完全な姿で出土した。ヒノキの木棺から完全な人骨も出土した。

この中期の方形周溝墓の溝から墓前祭祀に使われた朱塗りの壺や把手付鉢などが出土した。木製品では、双頭渦文が彫刻された蓋付四脚容器などがある。材質はヤマグワ製で朱彩されていたが、現在は朱の痕跡を確認することはできない。その他、ノグルミ製鳥形木製品は墓で使われた最古のものであった。また大阪府教育委員会の雁屋遺跡発掘調査でも鳥形木製品が出土している。

石製品は大量に出土しているが、特筆すべきものは銅鐸の舌が2本出土していることである。そのうちの1本は徳島県の吉野川産の塩基性凝灰岩質点紋片岩である。銅鐸については、「明治44年に、砂岡山から入れ子になった銅鐸2口が出土した」と伝えられる砂山銅鐸があるが、現在関西大学が所蔵されている。その他、分銅形土製品が2点出土している。

雁屋遺跡で後期のV様式に属する土器も多量に出土している。そのなかで出雲の西谷3号四隅突出型墳丘墓で出土した土器と同形のものが3点出土している。その内訳は把手付き鉢（住居跡）・脚付き鉢（円形周溝墓）・低脚杯（包含層）である。

西谷3号墳墓から多量の土器が出土しているが、これらの土器は葬送儀礼で使われたものであり、このなかには各地との交流を示す吉備の特殊土器や北陸系の土器も含まれていた。丹後・北陸地方の把手付き鉢・脚付き鉢は他に類例が見当たらず西谷3号墳墓と雁屋遺跡のみ出土している。低脚杯は山陰の土器である。

雁屋遺跡は《中期において拠点的集落であり、後期になるとその位置を保っていなかった》と考えていたが、先述の土器は出雲や丹後・北陸との交流を示し、衰退したとは全く考えられない。雁屋遺跡は中期から後期まで拠点的集落として存在した重要な遺跡である。しかし、後期の土器については未整理のものが多く今後の研究の課題としたい。

古墳時代

古墳時代前期においては忍岡古墳がある。全長約90mの前方後円墳である。この古墳の竪穴式石室は保存され見学できる。この古墳築造に関わった集落は確認されていないが今後の調査で発見できる可能性がある。

古墳時代中期になると四條畷市中野あたりを中心にして馬の飼育が始まった。馬は朝鮮半島から運ばれ、渡来系の人々によって飼育された。

馬の祭祀場であった奈良井遺跡から犠牲馬の首をはじめ儀式で使われた人形・馬形の

土製品やミニチュア土器が多数出土した。

古墳時代の四條畷市は飯盛山系が南北に走り、山麓の西方2kmほどで河内湖となる。飯盛山系から、讚良川・清滝川・権現川が河内湖に注いでいる。この川が自然の柵となり小規模な牧場に適した環境であった。市内の古墳時代中期遺跡からは必ずと言っていいほど馬の歯・製塙土器が出土する。また四條畷小学校内遺跡・奈良井遺跡・中野遺跡などで初期須恵器をはじめ韓式土器や韓式系土器が数多く出土し、渡来系の人々の存在を示している。他に、寝屋川市楠遺跡・高宮八丁遺跡・長保寺遺跡などがある。

墓については、墓ノ堂古墳など次々と築造されるが古墳に伴う形象埴輪は少なく、埴輪のほとんどが集落から出土したものである。古墳からのものでは、忍ヶ丘駅前2号墳で琴を弾く人などがある。集落から出土したものとしては、忍ヶ丘駅前遺跡で人物埴輪・犬形埴輪（オスの子犬）・水鳥形埴輪、南山下遺跡で馬形埴輪、岡山南遺跡で家形埴輪が出土している。なお家形埴輪に伴って左足用の日本最古の木製下駄が出土している。

飯盛山系山麓は、馬飼の人々が墓域とした清滝古墳群・大上古墳群がある。大上古墳群から横穴式石室が発見された。この古墳は鎌倉時代に盗掘され遺物のほとんどは失われていたが金銅装中空耳環などが出土した。その他の古墳で多数の遺物が出土している。

他に、大東市堂山古墳群、寝屋川市太秦古墳群・終末期の石宝殿古墳がある。

奈良時代

古墳時代に飯盛山系山麓に築かれた古墳群が、奈良時代の正法寺建立によって整地され破壊された。古墳は密集しているが、ほとんどの主体部が削平されている。

四條畷市の正法寺・讚良寺、寝屋川市高宮廃寺の三寺院は山系山麓の南北1km内に接近して建立された。

その他、木間池北方遺跡の河川から円面鏡や土器と共に土馬が7体出土した。南野遺跡では「大」の字を墨書した土器が出土した。

城遺跡では通産省との合同地震調査が行われ、生駒断層の跡が発見された。この断層の研究の結果、断層の上の層から奈良時代の須恵器杯が出土し、地震は奈良時代以前におこったと判断できた。その後炭素年代法の分析で1890±50年の年代が判明し、地震は弥生時代ごろであったことがわかった。このように地震予知の研究で、地質学と考古学が共同で研究する地震考古学が注目されている。

なお古代から中世にかけても数多くの遺跡が知られている。

第2章 調査にいたる経過

奈良田遺跡と奈良井遺跡の調査にいたる経過は、以下の通りである。

奈良田遺跡

奈良田遺跡は四條畷市岡山1丁目に所在する。この遺跡の発見は、昭和55年1月に都市計画街路予定地にある工場の代替地（約600m²）である水田地の発掘調査を実施したことから始まる。その結果、深さ約50cmのところから30ヶ所の柱跡群・落ち込み状遺構・土坑・板枠井戸等の遺構を発見することができた。これらの柱跡は掘立柱建物のもので、柱穴内から土師器・須恵器の土器片が出土した。土器形式から見て5世紀後半から6世紀前半の掘立柱建物である。

この柱穴の配置から2間×3間の建物であることを確認した。この建物の柱穴のなかに滑石製勾玉が納められていた。

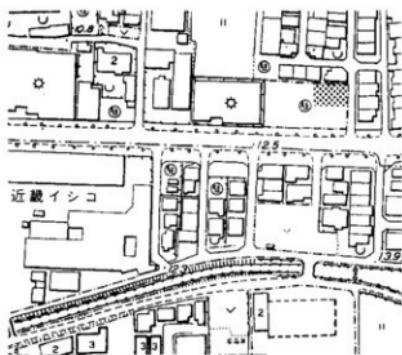
この掘立柱建物跡の北側から落ち込み状遺構（長さ10m・幅3m・深さ1m）が確認され、遺構内から6世紀初頭の土師器壺・壺・須恵器杯身・杯蓋などが多量に出土した。

この建物跡と落ち込み状遺構との間で直径1.2m・深さ1mのヒノキ材の板で枠組みにしたほぼ完全な方形板枠井戸が検出された。この井戸の底から土師器壺・砾・滑石製白玉等が出土している。市内で同時期の井戸としては、素掘井戸が10数例見つかっているが板枠井戸は奈良井遺跡の方形板枠井戸について2例目である。

奈良井遺跡

奈良井遺跡は、四條畷市中野3丁目に所在する。この遺跡の発見は、昭和51年から53年にかけて国鉄片町線複線化工事に伴う発掘調査を実施したが、その事前調査で古墳時代の掘立柱建物跡を発見したことに始まる。

その後、東高野街道沿いに所在する四條畷市立市民総合センター建設予定地を昭和54年9月から発掘調査を実施した。その結果、古墳時代中期末につくられた長さ約16m・最大肩幅約2.5m・深さ約1mの中央溝状遺構を検出した。その溝を取り囲むように一辺の長さ約40m・最大肩幅約5m・深さ約1~1.5mの方形周溝状遺構が検出された。これは古墳時代後期初頭に属するものである。この方形周溝状遺構の西約60mのところで古墳時代後期初頭の一辺約1.2m・深さ約1mの方形板枠井戸等の遺構を発見した。



第2図 奈良田遺跡調査区位置図 S=1/2500



第3図 奈良井遺跡調査区位置図 S=1/2500

これらの二時期にわたる遺構の中で特に注目されるのは、馬骨である。7頭分の馬骨及び馬歯はすべて方形周溝状遺構内から出土した。その中でも体長1.5m・体高1.2mの蒙古馬系の小型成馬がほぼ完全な形で発見されたことは注目に値する。また、同一溝内の土壙に小型成馬の頭部だけを切取って埋葬された例もあった。

このような頭部だけの出土例としては、昭和52年の大阪ガス埋設工事に伴なう中野遺跡の発掘調査で古墳時代中期（5世紀）の馬の下顎骨が出土している。他市の出土例としては、茨木市郡遺跡で土坑内に馬頭骨が埋葬されていた。東大阪市日下貝塚では馬1頭分が完全な形で出土している。古事記・日本書紀に記述されているように渡来人の河内馬飼首荒籠と四條畷市あたりの牧場が深く関わりがあるのだろう。

このように古代河内湖のほとりで馬骨の出土が多くなっているが、それとともに、土製ミニチュア模造品が注目されている。土製ミニチュア模造品の土器と、馬形・人形土製品18点が中央溝状遺構と方形溝状遺構の合流地点から一括で出土している。

他県の出土例として、埼玉県大里郡岡部村大字今泉の今泉祭祀遺跡・静岡県浜松市中津坂上祭祀遺跡・鳥取県倉吉市谷畑遺跡・静岡市磐田市明ヶ島5号墳がある。なかでも1999年に発表された明ヶ島5号墳では当時の生活用具を表現したミニチュア土製品5,000点が古墳の葺石の下から発見された。これは日本最大の出土量である。

その他、奈良井遺跡の出土遺物としては、須恵器大甕・高杯・杯身・杯蓋、土師器長胴甕・小形丸底甕・壺・高杯・ミニチュア土器や滑石製有孔円板・白玉、加工木製品などが出土している。中でも中央溝状遺構内出土の須恵器大甕内から滑石製白玉36個の一括出土があった。同様に数個体の土師器甕内から滑石製白玉が出土した。

第3章 調査の成果

奈良田遺跡（第4図・第5図・図版1～図版4）

この調査区は四條畷市岡山1丁目地内で奈良田遺跡の中心部に位置する。都市計画街路に隣接する場所で、調査にいたる経過で説明した工場代替地の東側隣接地駐車場の北東位置に東西15.7m・南北12.7mの建設予定地で調査面積200m²が対象地であった。

発掘調査は、最初に駐車場のアスファルト及び碎石・盛土をバックホーで機械掘削後遺構検出面まで掘り下げた結果、調査区南側端で平安時代の曲物井戸・調査区北側端で古墳時代の柱穴と中央部で河川跡・溝・土坑等の遺構が検出された。

層序

調査区の南側断面の基本層序は、上からアスファルト・碎石・盛土で駐車場整備に伴う盛土であった。水田面の堆積土層は、第1層旧耕土、第2層床土、第3層緑灰色砂質土(7.5G Y5/1)、第4層オリーブ灰色砂質土(10Y6/2)下で遺構のベース面を確認した。遺構は平安時代の曲物井戸、河川を検出した。

調査区の東側断面の基本層序は、上からアスファルト・碎石・盛土で第1層旧耕土、第2層床土、第3層緑灰色砂質土(7.5G Y5/1)下で遺構のベース面を確認した。遺構は河川、溝を検出した。

第1層 旧耕土。厚さ15～20cmで調査区全域で確認した。

第2層 床土。厚さ10cmで調査区全域で確認した。

第3層 厚さ10cmで地山を確認した。耕土から地山まで約35～50cmであった。

曲物井戸（第5図・図版2～図版4）

発掘調査区南側断面の西から4.7m地点で平安時代の曲物井戸を検出した。規模は東西幅2.2m、南北幅2mのほぼ円形の掘り方で、南東よりに東西77cm・南北85cmの曲物を設置するための掘り方内に直径50×56cmのヒノキ材の曲物が設置されていた。井戸の検出面の高さT・P+12.94m、深さ64cmであった。

曲物設置掘り方内から土師質皿（第5図-4）が完形で出土した。内外面に朱が塗布されていることから、祭祀に使われたのち置かれたものと思われる。土師質皿の口縁部高さは、T・P+12.65mである。この土師質皿は第2層にぶい黄色砂層(2.5Y6/3)内からの出土で、口径10cm・器高1.9cmである。第3層の褐灰色砂層(10YR6/1)内から黒色

土器A類（第5図-3）及び黒色土器B類（第5図-1・2）と土師質皿（ての字形）（第5図-5）が出土している。

曲物井戸内及び井戸掘り方内の堆積土は、以下の通りである。

曲物井戸内堆積土。第1層灰黄色砂質土(2.5Y6/2)、第2層浅黄色砂層(2.5Y7/4)、第3層にぶい黄橙砂層(10YR6/4)、第4層にぶい黄橙砂層(10YR7/2)、第5層褐灰色砂層(10YR5/1)、第6層褐灰色砂層(10YR6/1)、第7層灰白色砂層(10Y7/1)で地山となる。

井戸の掘り方の堆積土層は、第1層灰白色砂層(10YR8/2)、第1'層灰白色砂層(10YR7/1)、第2層にぶい黄色砂層(2.5Y6/3)、第2'層浅黃橙色砂層(10YR8/4)、第3層灰黄色砂層(2.5Y6/2)、第3'層褐灰色砂層(10YR6/1)、第4層黄灰色粘土層(2.5Y6/1)、第5層灰白色砂層(2.5Y7/1)、第6層浅黄色砂層(2.5Y7/2)で一部は地山になっている。

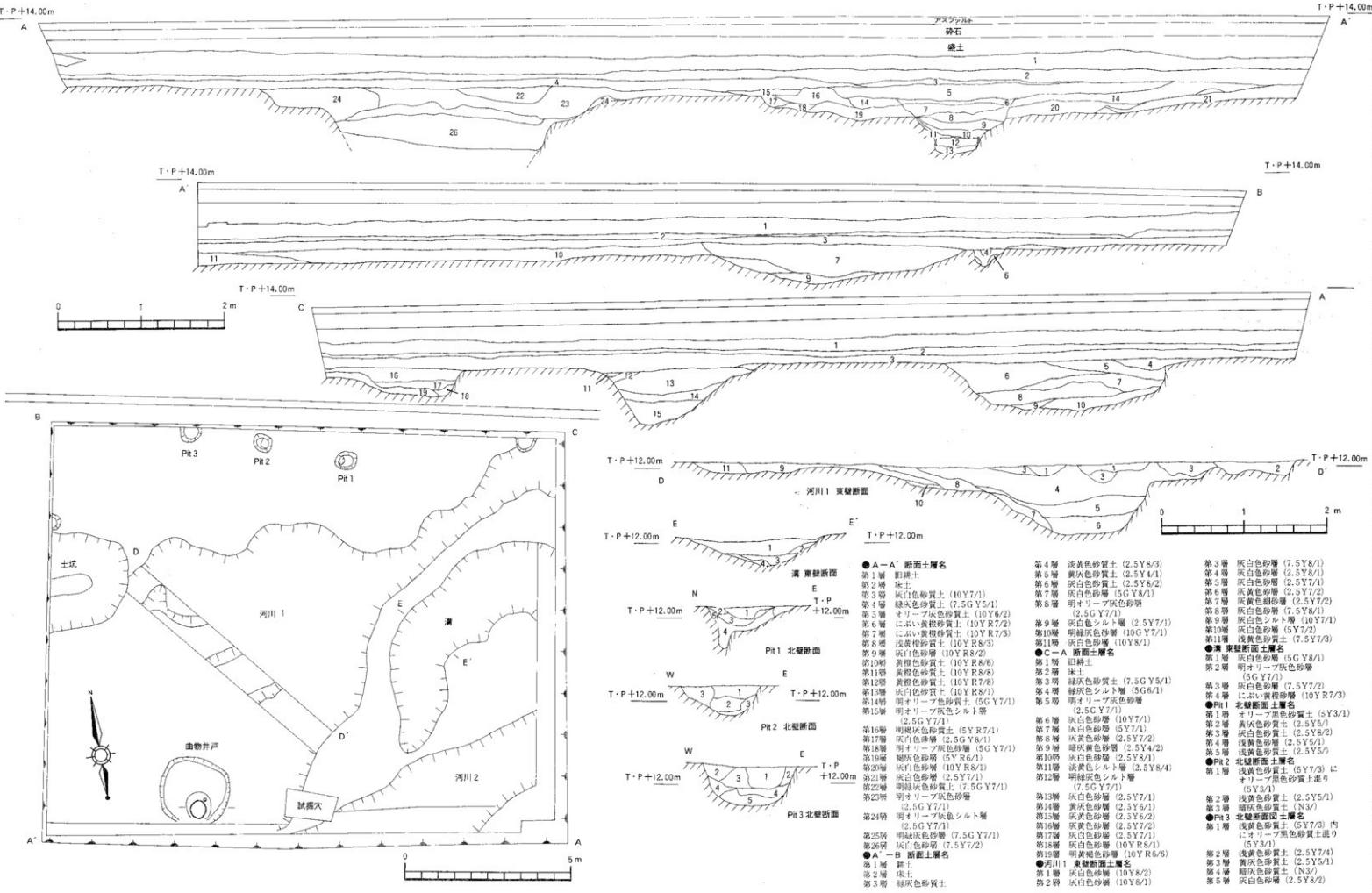
掘立柱建物跡（第4図・図版1）

調査区の北側端で掘立柱建物跡を検出した。柱穴3ヶ所の検出状況から東西は2間以上あると思われるが、南北は調査範囲外のため不明である。今回の調査区のすぐ西側で昭和55年に発掘調査を行った調査区で2間×3間の掘立柱建物跡を検出している事から柱跡の中から出土する土器からみると6世紀前半のものである。今回検出した掘立柱建物跡と同規模であると考えられる。

Pit 1 の規模は東西55cm・南北55cm・深さ25cmの円形を呈している。検出面の高さはT・P+12.05mである。Pit内の堆積土層は、第1層オリーブ黒色砂質土(5Y3/1)、第2層黄灰色砂質土(2.5Y5/)、第3層灰白色砂質土(2.5Y8/2)、第4層浅黄色砂層(2.5Y5/1)、第5層浅黄色砂質土(2.5Y5/)で地山になる。第4層内から古墳時代の製塩土器が出土した。

Pit 2 の規模は東西50cm・南北52cm・深さ18cmの円形を呈している。検出面の高さはT・P+12.09mである。Pit内の堆積土層は、第1層浅黄色砂質土(5Y7/3)にオリーブ黒色砂質土混じり(5Y3/1)、第2層浅黄色砂質土(2.5Y5/1)、第3層暗灰色砂質土(N3/)で地山になる。第2層内から須恵器杯身及び土師器片が出土した。

Pit 3 の規模は東西56cm・南北は調査外のため不明であるがほぼ東西と同じ大きさである。検出面の高さはT・P+12.13mである。Pit内の堆積土層は、第1層浅黄色砂質



第4図 奈良田遺跡遺構配置図及び断面実測図

土(5Y7/3)内にオリーブ黒色砂質土混じり(5Y3/1)、第2層浅黄色砂質土(2.5Y7/4)、第3層黄灰色砂質土(2.5Y5/1)、第4層暗灰色砂質土(N3/)、第5層灰白色砂層(2.5Y8/2)で地山になる。Pit内から須恵器杯蓋及び土師器片が出土した。

以上の3ヶ所の柱穴は建物の南側柱列で後世の平安時代に削平されている。柱間は2.4mの等間隔である。

河川(第4図・図版1)

調査区の北東隅に、幅1.35m・長さ19mで中央部から西側に大きく広がる灰白色の砂層が河川1である。検出面の高さT・P+12.05mであった。

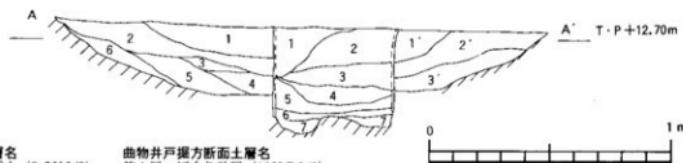
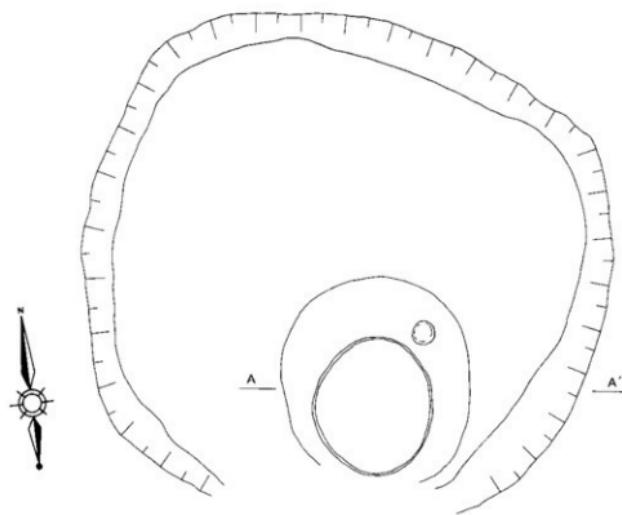
今回の申請書類に添付されている建物基礎図面では現況アスファルトGL-1mであるため、河川検出面が基礎工事底より低いことから基礎構造上、河川全体の発掘調査を行わず河川最大幅の位置に幅80cm・長さ7.7mのトレーンチ調査を行った。

トレーンチ調査の東側断面観察の結果、トレーンチ内の第1層灰白色砂層(10Y8/2)、第2層灰白色砂層(10Y8/1)、第3層灰白色砂層(7.5Y8/1)、の各ブロックの堆積土層を除去した結果、南側で地山層を確認した。しかし、北側では地山層を確認できなかたため堆積土層の掘り下げを行った。

第4層灰白色砂層(2.5Y8/1)は、幅3.6m・最大厚み46cmにわたり堆積している。第5層灰白色砂層(2.5Y7/1)は、幅2m・最大厚み26cm、第6層灰黄色砂層(2.5Y7/2)は、幅1.1m・厚み20cmで一部地山になるが、河川右岸側の堆積土で地山を確認できない。第7層灰黄色細砂層(2.5Y7/2)、第8層灰白色砂層(7.5Y8/1)、第9層灰白色シルト層(10Y7/1)、第10層灰白色砂層(5Y7/2)、第11層浅黄色砂質土(7.5Y7/3)で地山をすべての箇所で確認した。その結果、断面観察において最初の河川の幅は7.3mで深さ80cmの規模であったことが判明した。

また、南東隅で幅2m・長さ8.4mの河川2を検出した。検出面の高さT・P+12.12mであった。この河川も建物予定基礎より深く検出したため、建物の影響の出ない南側側溝で河川の堆積土層を確認した。その結果、第3層緑灰色砂質土(7.5G Y5/1)下層面で河川2の左岸肩部の落ち込みラインを検出した。

河川2の堆積土層は、第22層明緑灰色砂質土(7.5G Y7/1)、第23層明オリーブ灰色砂層(2.5G Y7/1)、第24層明オリーブ灰色シルト層(2.5G Y7/1)、第25層明緑灰色砂層(7.5G Y7/1)、第26層灰白色砂層(7.5Y7/2)まで70cm掘り下げて河川2最下層面を調べたが



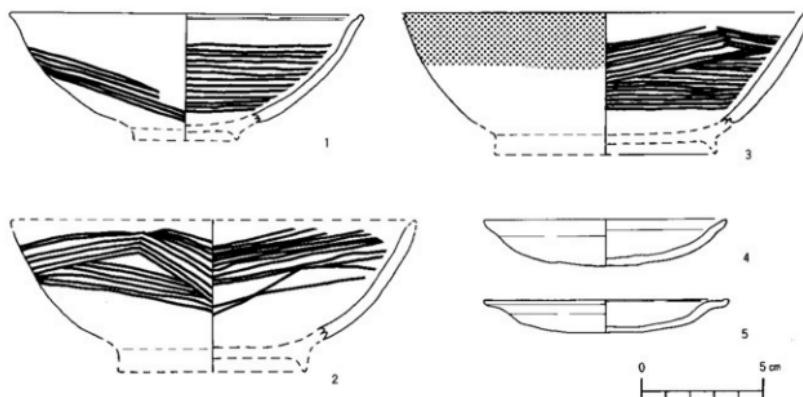
曲物井戸内堆積土層名

第1層：灰黄色砂質土（2.5Y 6/2）
第2層：浅黄色砂層（2.5Y 7/4）
第3層：にぶい黄橙砂層（10Y R6/4）
第4層：にぶい黄橙砂層（10Y R7/2）
第5層：褐色砂層（10Y R5/1）
第6層：褐色砂層（10Y R6/1）
第7層：灰白色砂層（10Y 7/1）

曲物井戸掘方断面土層名

第1層：灰白色砂層（10Y R8/2）
第2層：にぶい黄色砂層（2.5Y 6/2）
第3層：灰黄色砂層（2.5Y 6/2）
第4層：灰白色粘土層（2.5Y 6/1）
第5層：灰白色砂層（2.5Y 7/1）
第6層：浅黄色砂層（2.5Y 7/2）

第1'層：灰白色砂層（10Y R7/1）
第2'層：浅黄橙色砂層（10Y R8/4）
第3'層：褐色砂層（10Y R6/1）



第5図 奈良田遺跡曲物井戸実測図及び井戸内出土遺物

地山を確認できなかった。出土遺物としては、第26層内から長さ38mm・最大幅12.5mm・最大厚さ2.5mmの縄文時代の石鏃1本が出土した。

溝（第4図・図版1）

調査区東側で検出した河川1と河川2との間で溝を確認した。溝の規模は幅2.1m・長さ8mで半円形を呈する形で検出したため、東側側溝と溝中央部でそれぞれトレチを設定した。東側側溝断面の堆積土層は、第11層淡黄色シルト層(2.5Y8/4)、第12層明緑灰色シルト層(7.5G Y7/1)、第13層灰白色砂層(2.5Y7/1)、第14層黄灰色砂層(2.5Y6/1)、第15層灰黄色砂層(2.5Y6/2)で溝内深さ63cmで地山を確認した。また中央部のトレチ東側断面は第1層灰白色砂層(5G Y8/1)、第2層明オリーブ灰色砂層(5G Y7/1)、第3層灰白色砂層(7.5Y7/2)、第4層にぶい黄橙砂層(10Y R7/3)で深さ31cmの皿状で溝底の地山を確認した。堆積土層内から出土遺物はなかった。

土坑（第4図・図版1）

調査区西端中央部で検出した遺構で、西側調査区外に広がる土坑である。土坑の規模は最大幅3m・長さ2.35mまで確認できた。

土坑内の堆積土層は第7層灰白色砂層(5G Y8/1)、第8層明オリーブ灰色砂層(2.5G Y7/1)、第9層灰白色シルト層(2.5Y7/1)で深さ45cmの皿状で土坑底の地山を確認した。堆積土層内の灰白色砂層内から瓦器塊片及び土師質皿片が出土した。

今回の発掘調査区で検出した各遺構の中で最も新しい時期である。

出土遺物（第5図・図版4）

第5図に示した遺物は曲物井戸掘り方から出土したものである。実測可能な黒色土器・土師質皿を図化した。すべて平安時代のものである。

第5図—1 黒色土器B類、口径14.4cm・推定器高5.3cm、器高指数36で口縁部内面に1条の沈線を巡らしている。体部内面は細かいヘラミガキが施されている。

第5図—2 黒色土器B類、推定口径16.5cm・器高6.3cm、器高指数38で体部内面は細かいヘラミガキが施されている。

第5図—3 黒色土器A類、口径16.5cm・推定器高5.8cm、で口縁部内面に沈線を巡らない。体部外面は指押さえで仕上げている。

第5図—4 土師質皿、口径10cm・器高1.9cmで口縁部を少し外反させている。

第5図—5 土師質皿、口径10cm・器高1.4cmで口縁部を「て」の字口縁にしている。

奈良井遺跡（第6図～第10図・図版5～図版12）

この調査区は、四條畷市中野3丁目地内で奈良井遺跡の中心部に位置する。

昭和54年、四條畷市立市民総合センター建設に伴う発掘調査で方形周溝状遺構が検出されている。遺構の規模は、一辺約40m・最大肩幅約5m・深さ約1～1.5mのU字状を呈する。周溝内から古墳時代後期の土師器大甕・甕・須恵器高杯・砾・大甕・杯身・杯蓋、及び滑石製有孔円板、土製模造品の人形・動物形・土製丸玉・壺・甕・鉢と加工木製品など数多く出土した。

その中でも特筆すべきものは馬骨である。周溝内の底に板を敷いた上に馬の骨一頭分が出土したことである。この馬は、体長1.5m・体高1.2mと蒙古系の小型種であった。その他、犠牲馬として首を切られ埋葬されているものも数体出土した。この場所で馬にかかる儀礼を行ったのである。

馬は古墳時代になって朝鮮半島から運ばれ、四條畷市あたりで渡来系の人々によって飼育繁殖された。牧は河内湖周辺に集中しているようだ。

今回の調査区は、上記で説明した一辺約40mの方形周溝状遺構を検出した北側の溝の続きに位置する場所である。調査範囲は東西8.5m・南北7.6mの建設予定地で調査面積64.6m²が対象地であった。

発掘調査は、最初にバックホーで遺物包含層上層面まで80cmの機械掘削後遺構検出面まで掘り下げた結果、調査区南側寄りで予想どおり古墳時代の大溝を検出した。

層序

調査区の南側断面の基本層序は、上から第1層盛土、第2層旧耕土、第3層床土、第4層灰白色砂質土(2.5Y7/1)、第5層黄灰色砂質土(2.5Y6/1)下で遺構のベース面を確認した。遺構は古墳時代の大溝・土坑・柱穴・溝等の遺構が検出された。

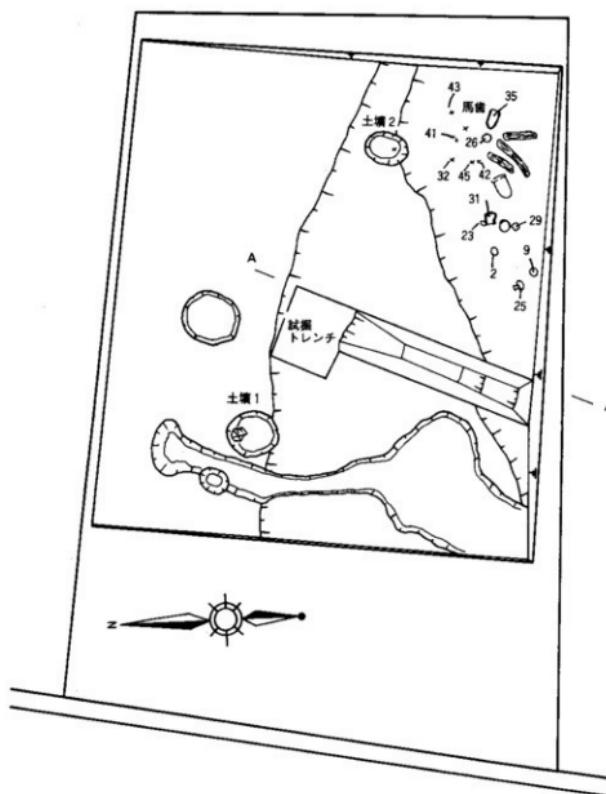
第1層 盛土。厚さ12cmで旧住宅時の盛土。

第2層 旧耕土。厚さ8cmで調査区全域で確認した。

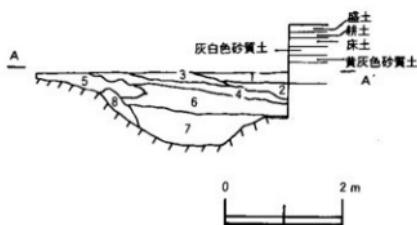
第3層 床土。厚さ15cmで調査区全域で確認した。

第4層 灰白色砂質土(2.5Y7/1)。厚さ13cmで調査区全域で確認した。

第5層 黄灰色砂質土(2.5Y6/1)。厚さ11cmで調査区全域で確認した。下層面で方形周溝状遺構内の堆積土である灰黄褐色砂質土を検出した。



- 第1層：灰黃褐色砂質土 (10Y R6/2)
- 第2層：黒色粘質土 (NL5/)
- 第3層：にがい黄橙色砂質土 (10Y R6/4)
- 第4層：黄灰色砂質土 (2.5Y 6/1)
- 第5層：灰色砂質土 (5Y 6/1)
- 第6層：暗灰色粘質土 (N3/)
- 第7層：灰白色粗砂 (5Y 7/1) に6層が層状に混入
- 第8層：明青灰色粘質土 (10B G7/1) に6層混入



第6図 奈良井遺跡遺構配置図及び断面実測図

今回の発掘調査で検出した各遺構の中で出土遺物の認められたのは大溝である。この調査区で確認された大溝は、昭和54年調査で検出された祭祀場のマウンドをとりまく大溝に続くもので、範囲確認においても重要な調査結果が得られた。

大 溝（方形周溝状遺構）（第6図・図版5～図版7）

発掘調査区中央部で大溝の右岸側肩部を検出した。規模は東西幅6.7m、南北3.7mまで確認した。大溝の堆積土層を確認する為のトレンチを南北方向に設定した。

その結果、第1層灰黄褐色砂質土(10Y R 6/2)厚さ17cm、第2層黒色粘質土(N 1.5/1)厚さ26cm、第3層にぶい黄橙砂質土(10Y R 6/4)厚さ13cm、第4層黄灰色砂質土(2.5Y 6/1)厚さ15cm、第5層灰色砂質土(5Y 6/1)厚さ30cm、第6層暗灰色粘質土(N 3/)厚さ40cm、第7層灰白色粗砂(5Y 7/1)厚さ57cmに第6層が混入、第8層明青灰色粘質土(10B G 7/1)に第6層混入で溝底になった。

第2層の黒色粘質土から多量の須恵器、土師器、土製品が出土した。ほぼ完全な土器及び祭祀遺物について第7図～第10図に土器実測図を掲載している。

第6層から第7図-19の須恵器把手付壺及び第10図-39の土師器ミニチュア土器が出土している。その他溝内から出土した土器は、土師器甕、須恵器杯身、杯蓋などである。これらは祭祀行為によって溝の中に投供されたものであるが須恵器杯身が特に多く出土した。

この大溝が馬に関わる祭祀場であったことは出土遺物からもうかがい知ることができる。馬齒と製塩土器は馬の存在を示すものである。製塩土器は大溝からの出土としては初出である。祭祀具としてはミニチュア土器やミニチュア紡錘車が出土した。その他、韓式土器や韓式系土器の出土は渡来人の存在を思わせるものである。

この大溝は本来なら幅2～5mぐらいはあるだろう。今回の調査は面積の都合で検出した溝幅は半分であった。

この大溝は、溝底の比高差から見ると東から西への流路であると考えられる。

出土遺物（第7図～第10図・図版8～図版12）

出土した遺物はすべて大溝からのものである。この大溝は、昭和54年9月に現在の市民総合センターの発掘調査によって発見された、一辺40mのマウンドを取り囲む溝の続きである。このマウンドは馬の儀礼をした場所で、祭祀遺物とともに犠牲馬の頭蓋骨などが出土している。今回の調査区でも韓式土器や韓式系土器をはじめミニチュア土器や馬歯が出土し、前回調査した溝の続きであることを確認した。

第7図一1～8は須恵器の杯蓋である。6世紀の前半のものであろう。

第7図一1 口縁部の一部が欠損。口径14.2cm・器高4.4cm。

第7図一2 口縁部の一部が欠損。0.5～7mmの砂粒が多い。口径14.6cm・器高4.2cm。

第7図一3 完形品。口径15.0cm・器高4.4cm。

第7図一4 口縁部の一部が欠損。外面に灰が被っている。口径13.7cm・器高4.7cm。

第7図一5 口径15.1cm・器高4.9cm。

第7図一6 外面に灰が被っている。推定口径14.4cm・器高5.3cm。

第7図一7 口径14.2cm・器高4.7cm。

第7図一8 外面に灰が被っている。口径14.4cm・器高4cm。

第7図一9～16は須恵器杯身である。6世紀前半に属するものであろう。

第7図一9 口縁部の一部が欠損。外面に灰が被っている。口径11.8cm・器高3.9cm。

第7図一10 外面に粗いヘラケズリを施す。外面に灰が被り、内面に白い付着物がある。

口縁部の一部が欠損しているがほとんど完形品。口径12.1cm・器高4.7cm。

第7図一11 0.5～4mmの砂粒が多く含まれる。口径13.0cm・器高4.3cm。

第7図一12 ほぼ完形品。口径13.2cm・器高4.4cm。

第7図一13 ほぼ完形品。1.5～6mmの砂粒を含む。口径12.8cm・器高4.7cm。

第7図一14 完形品。外面1/2に灰が被っている。口径14.3cm・器高5.3cm。

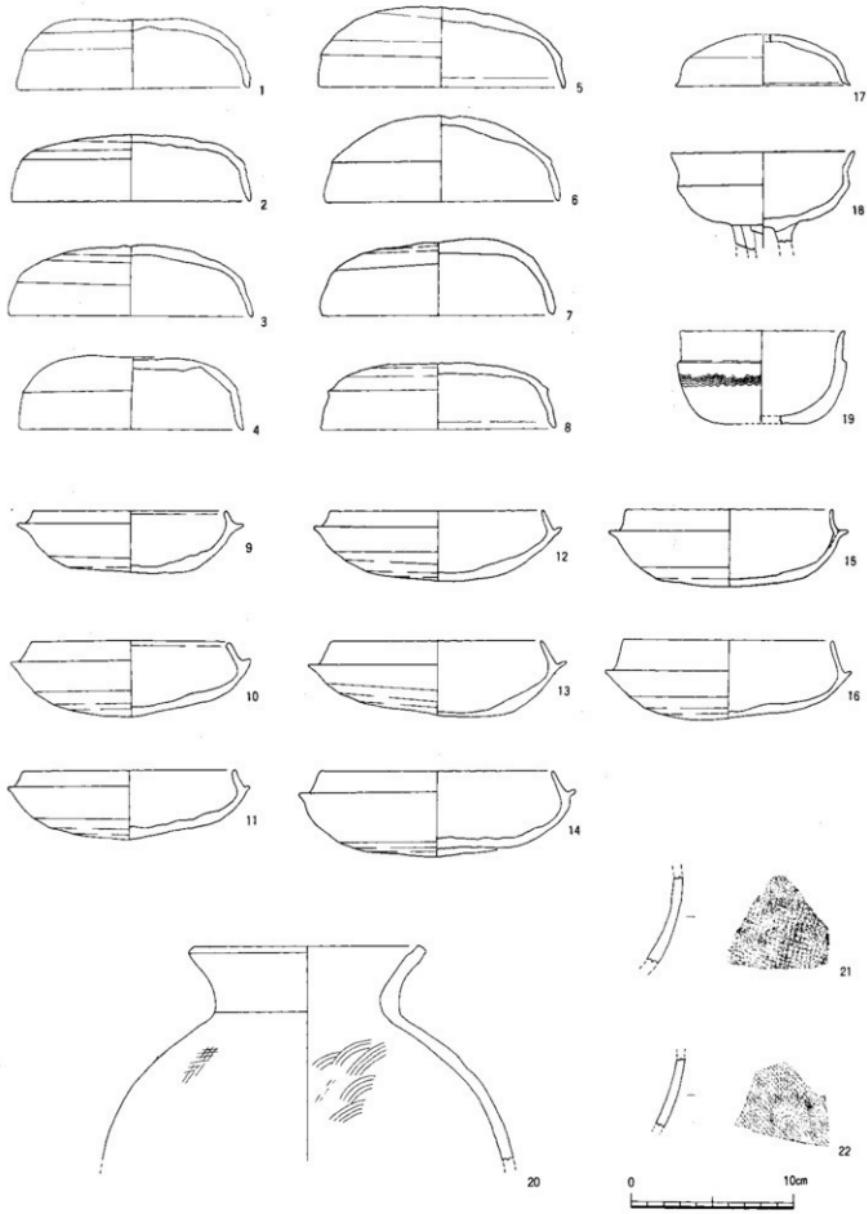
第7図一15 口径12.6cm・器高4.9cm。

第7図一16 口縁部が一部欠損。外面に灰が被っている。口径12.8cm・器高4.9cm。

第7図一17 須恵器杯蓋。口径10.6cm・器高3.1cm。この杯蓋は小型であるが丁寧な作りである。今回報告する杯のなかでは特異な器形である。

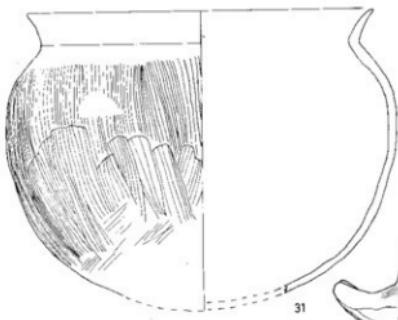
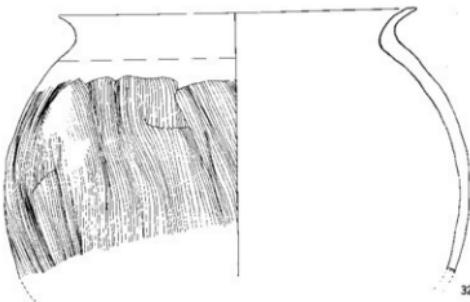
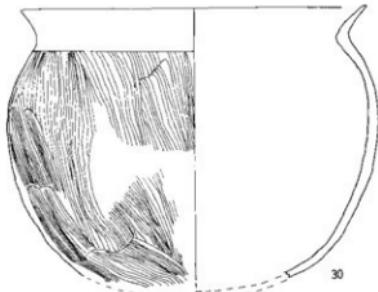
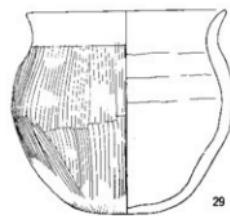
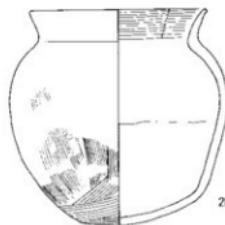
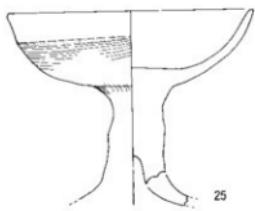
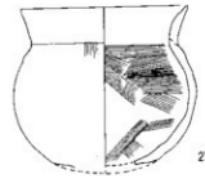
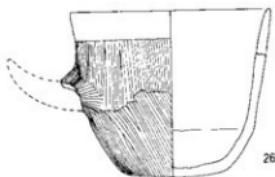
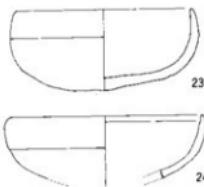
第7図一18 須恵器無蓋高杯。脚部が欠損。3ヶ所に縦長の透かしをもつものであろう。

灰紫色で内外面ともに灰が被っている。口径11.2cm・残存高6.0cm。



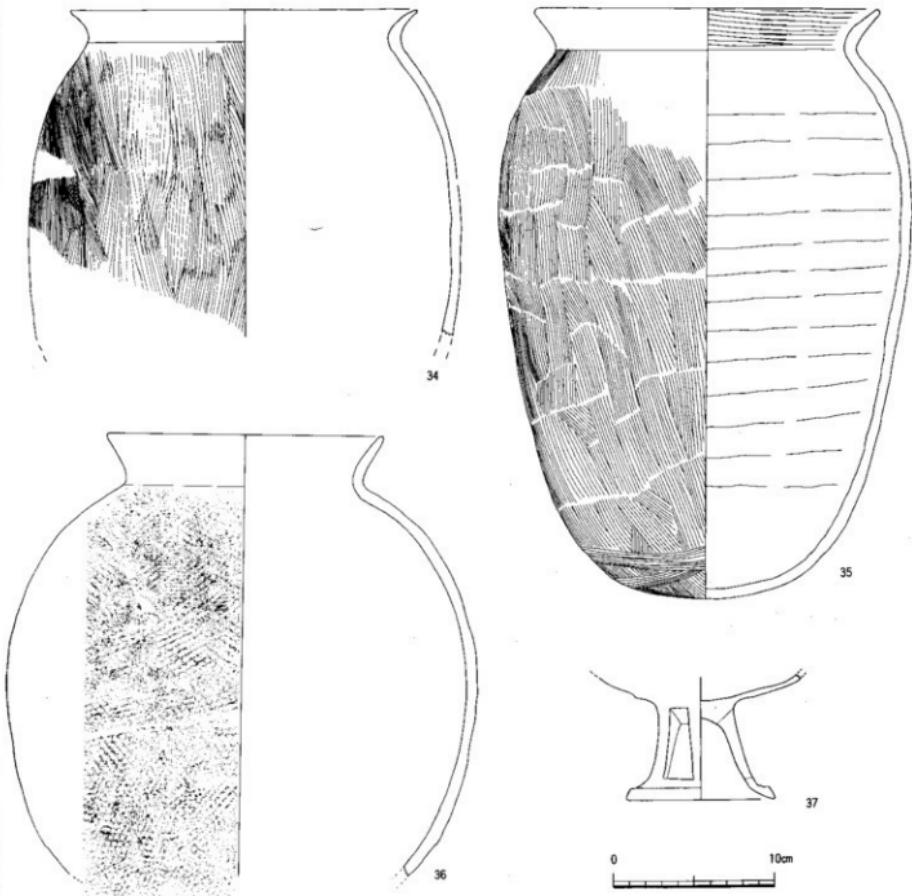
第7図 奈良井遺跡大溝内出土遺物

- 第7図—19 須恵器塊。胎土および色調は18と同様である。体部に5本の波状文が施されている。推定口径12.2cm・器高5.7cm。
- 第7図—20 須恵器甕。外面に叩き痕およびハケメが施され、内面は青海波紋が施されている。口径13.8cm・残存高13.3cm。
- 第7図—21 土師器甕小片。格子タタキメを施す韓式系土器である。
- 第7図—22 須恵器甕小片。繩蓆文を施した韓式土器である。灰紫色を呈している。
- 第8図—23 土師器塊。口縁部内外面をヨコナデしている。口径10.8cm・器高5.0cm。
- 第8図—24 土師器塊。口縁部外面はヘラミガキ。推定口径12.0cm・残存高3.9cm。
- 第8図—25 土師器高杯。脚裾部が欠損。杯部外面はハケメを施し、口縁部と杯部はナデである。口径15.0cm・残存高12.0cm。
- 第8図—26 把手付き鉢。把手は欠損しているが上向きの角形のものがつくであろう。外面全体と内面口縁部にハケメを施す。外面に煤が付着している。口径11.2cm・器高10.25cm。
- 第8図—27 小型土師器甕。外面はわずかにハケメが観察されるが、内面胴部上半にハケメを施す。内外面に煤が付着している。口径10.2cm・残存高9.8cm。
- 第8図—28 小型土師器甕。口縁部内面と外面にハケメを施す。外面に煤が付着。口径16cm・胴部最大径13.4cm・器高13.3cm。
- 第8図—29 土師器甕。口縁部の一部が欠損。外面ハケメを施し、煤が付着。口径12.0cm・胴部最大径13.6cm・器高12.5cm。
- 第8図—30 土師器甕。胴部と口縁部内面にハケメを施している。口径21.2cm・胴部最大径22.8cm・器高16.7cm。
- 第8図—31 土師器甕。30とほぼ同形である。
- 第8図—32 土師器甕。今回報告する甕のなかでは大型である。外面と口縁部内面に煤が付着している。推定口縁径21.4cm・胴部最大径28.8cm・残存高16.3cm。
- 第8図—33 土師器把手付き甕。外面に煤が付着。推定口縁径25.2cm・残存高18.3cm。
- 第9図—34 土師器長胴甕。胴部と口縁部内面にハケメを施している。推定口径21.0cm・胴部最大径26.6cm・残存高20.5cm。
- 第9図—35 土師器長胴甕。胴部と口縁部内面にハケメを施している。底部外面に煤が付着している。推定口径21.0cm・胴部最大径25.4cm・器高36.2cm。



0 10cm

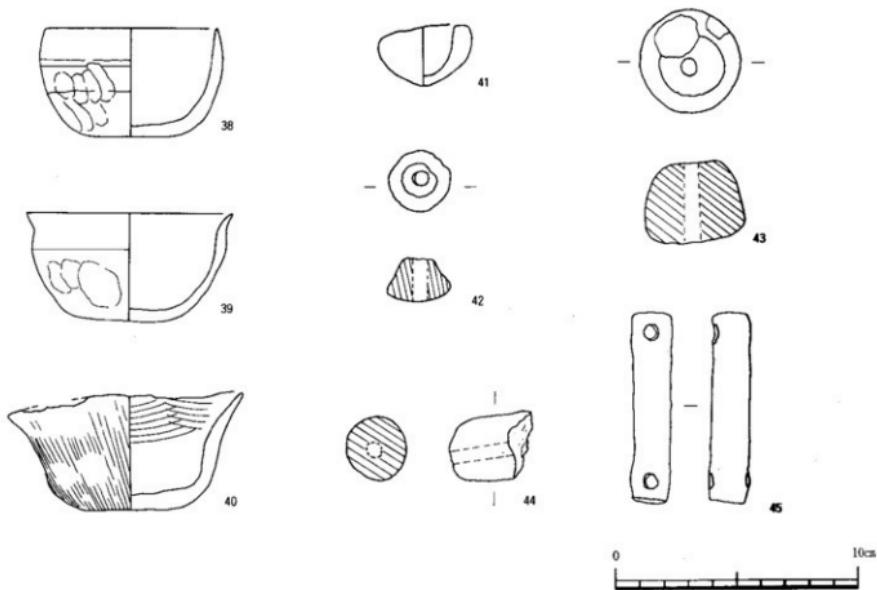
第8図 奈良井遺跡大溝内出土遺物



第9図 奈良井遺跡大溝内出土遺物

第9図-36 土師器の甕。格子目タタキを施す韓式系土器。推定口径17.0cm・胴部最大径29.0cm・残存高27.1cm。

第9図-37 須恵器高杯。杯部から脚裾に向かって縦長の透かし3本をもつ。口縁部が欠損しており杯部は有蓋か無蓋かは不明である。残存高7.9cm・脚部高5.8cm・底径9.0cm。



第10図 奈良井遺跡大溝内出土遺物

第10図—38 土師器ミニチュア鉢。口縁部内外面はヨコナデしているが胴部は粘土紐接合痕が顯著である。推定口径7.0cm・器高4.9cm。

第10図—39 土師器ミニチュア鉢。ほぼ完形品。口縁部内外面はヨコナデであるが、胴部は指頭圧痕が顯著である。口径8.4cm・器高4.5cm。

第10図—40 土師器ミニチュア甕。ほぼ完形品。口縁部内面と外面口縁部から胴部にかけて縦にハケメを施す。口径9.7cm・器高4.7cm。

第10図—41 土師器ミニチュア鉢。奈良井遺跡で出土したミニチュアの中でも最も小さい。外面にモミ压痕が認められる。口径3.6cm・器高2.5cm。

第10図—42 土製ミニチュア紡錘車。灰黒色である。最大幅2.6cm・最小幅1.3cm・高さ1.8cm。孔の直径0.6~0.7cm。

第10図—43 土製紡錘車。最大幅4.1cm・高さ3.3cm。孔の直径0.65~0.7cm。

第10図—44 土製錐。欠損している。直径2.6cm・残存長3.4cm。孔の直径0.65cm。

第10図—45 土製錐。完形品。長さ7.8cm・中央の直径1.6cm。孔の直径0.5~0.55cm。

図版8—46 製塙土器片。タタキメを施している。 図版8—47 馬齒。

第4章　まとめ

奈良井遺跡

奈良井遺跡は古墳時代中期から後期まで続く遺跡である。

今回の調査区で出土した遺物はすべて大溝からのものである。この大溝は、昭和54年11月に四條畷市立市民総合センターの発掘調査によって発見された一辺40mのマウンドを取り囲む溝の続きである。この遺構は馬の儀礼をした祭祀場で、祭祀遺物である大量のミニチュア土器や人や馬形の土製品とともに馬の頭蓋骨をはじめ7頭分以上の犠牲馬が出土している。

この祭祀場のそばで井戸が検出されているが、これは祭祀場に付属するものである。馬を犠牲にする神聖な儀式であるから、水を使って清めの儀式もおこなわれたであろう。井戸の祭祀遺物も数多く出土している。

今回の調査でもミニチュア土器や馬歯が出土し、前回調査した溝の続きであることを思させた。

古墳時代の北河内は渡来人によって牧場がひらかれ、馬が飼育された。その中心が四條畷あたりであった。現在の市役所あたりである中野遺跡や、南野米崎遺跡が集落の中心地であった。前記したように奈良井遺跡は馬の儀礼をおこなった祭祀場であるが、渡来人や馬の存在を示す馬骨や初期須恵器および韓式土器や韓式系土器が数多く出土するのは周知のとおりである。また馬の飼育に必要な道具であろうか用途不明の木製品も数多く出土している。

飯盛山麓に築かれた清滝古墳群や大上古墳群でも渡来人の馬飼の墓であることを示す馬骨や韓式土器・韓式系土器が出土する。

馬の飼料として欠かすことの出来ない塩をつくる容器の製塩土器は、馬の骨と共に古墳時代の遺跡から普遍的に出土する。また塩を焼く製塩炉も前回の調査区である奈良井遺跡で検出されている。これはこの場で最終工程の製塩作業をしたことを実証した貴重な発見となった。

以上がこれまでの奈良井遺跡に関する調査の概略である。

今回の調査区で検出された馬の祭祀場であるマウンドをとりまく大溝から大量の遺物

が折り重なるように出土した。特に須恵器杯身は集中的に出土した。このような状態は昭和54年の調査でも同様であった。そのなかに混じって馬齒や製塩土器をはじめ韓式土器・韓式系土器・ミニチュア土器が出土した。

韓式土器は小片であるが縄席文を施した須恵器壺片である。韓式系土器は格子タタキを施した土師器壺である。この壺は、縦半分が欠損しているものの四條畷では復元可能なものとしては初出である。

そのほか植物遺体としてサクラの原木が出土した。昭和54年の調査で出土した種子のなかで、ウメ・スモモ・サクラなどの幼果が出土し、遺跡周辺の植生が判明していたが、今回のサクラ原木の出土によってさらに当時の植生を強く示すこととなった。多種に出土した種子のなかで特異なものはアズキであった。これは祭祀場の入り口に設けられた井戸から出土したものである。これらの一連の種子は天理大学金原正明氏に同定していただいた。

古墳時代の四條畷市は飯盛山麓に墓地、総合センターを馬の祭祀場とし、市役所あたりを住居地とした。また体育館あたり(鎌田遺跡)は水田地であった。水田地では水口祭祀の跡が確認され、メノウの勾玉が供えられ、その近くでは奈良県十六面・薬王寺遺跡で出土している蓋鏡板と同形式の蓋鏡板が出土している(直径6.1cm・厚み1.0cm)。

奈良田遺跡

奈良田遺跡は古墳時代後期を中心とした遺跡である。昭和55年の調査では掘立柱建物跡や、ほぼ完全な方形板枠井戸が検出された。古墳時代における方形板枠井戸の検出は奈良田遺跡と奈良井遺跡の2例だけである。

今回の調査区での主な遺構は平安時代の井戸であるが、これは曲物井戸であった。曲物はヒノキ材を使用している。曲物を設置する掘り方内から完形の土師質皿が出土した。この土師質皿は内外面に赤を塗布しており、井戸の祭祀に使われたものであろう。

井戸の発見は平安時代になると急激に増加する。岡山南遺跡の板枠井戸から《高田宅》と《福万宅》と墨書きされた黒色土器A類の塊が出土している。この塊は今回出土した土師質皿と同様に井戸の祭祀に使われたものである。

水は生活するうえで必要不可欠なものであるから、井戸の祭祀は欠かせない行事であつた。四條畷市は東に飯盛山系と山系から流れ出す川、良い水の湧く井戸など恵まれた環境にあり、住みやすい地域であったことだろう。

報告書抄録

フリガナ	ナラダイセキ・ナライイセキ ハックツチョウサガイヨウホウコクショ
書名	奈良田遺跡・奈良井遺跡 発掘調査概要報告書
シリーズ名	国庫補助金事業
編著者名	野島 稔 村上 始
編集機関	四條畷市教育委員会
所在地	〒575-8501 大阪府四條畷市中野本町1番1号 TEL072-877-2121
発行日	2000(平成12年)3月15日

所収遺跡	所在地	コード 市町村	北緯 東經	調査期間	調査面積	調査原因
奈良田遺跡	四條畷市岡山	272299	北緯 34° 44' 26" 東經 135° 38' 28"	平成11年12月18日 ~12月22日	200m ²	個人住宅
奈良井遺跡	四條畷市中野		北緯 34° 44' 18" 東經 135° 38' 52"	平成12年1月8日 ~1月11日	64.6m ²	個人住宅

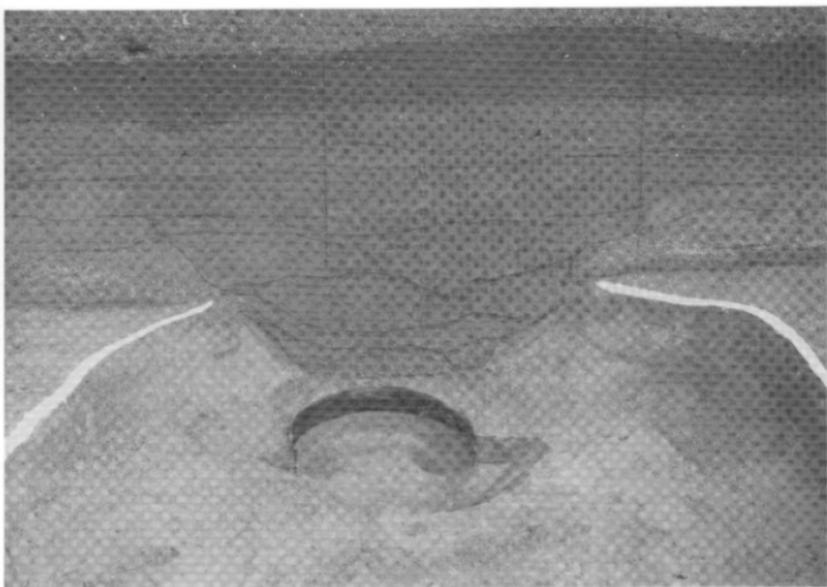
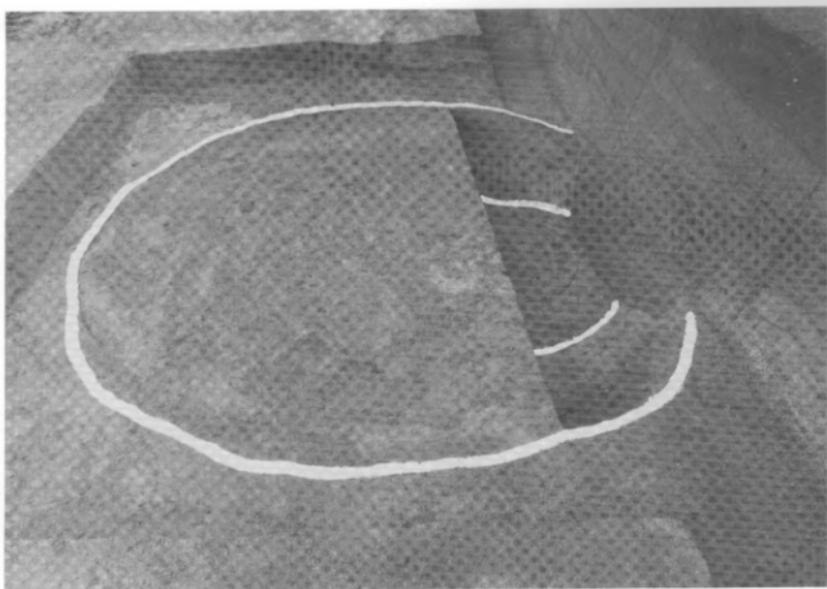
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
奈良田遺跡	集落	平安時代	井戸	土師質皿	井戸の祭祀
奈良井遺跡	祭祀場	古墳時代	大溝	馬齒・製塙土器 ミニチュア土器 ミニチュア紡錘車 韓式・韓式系土器	馬の祭祀場をとりまく溝の続きを確認することができた。

圖 版

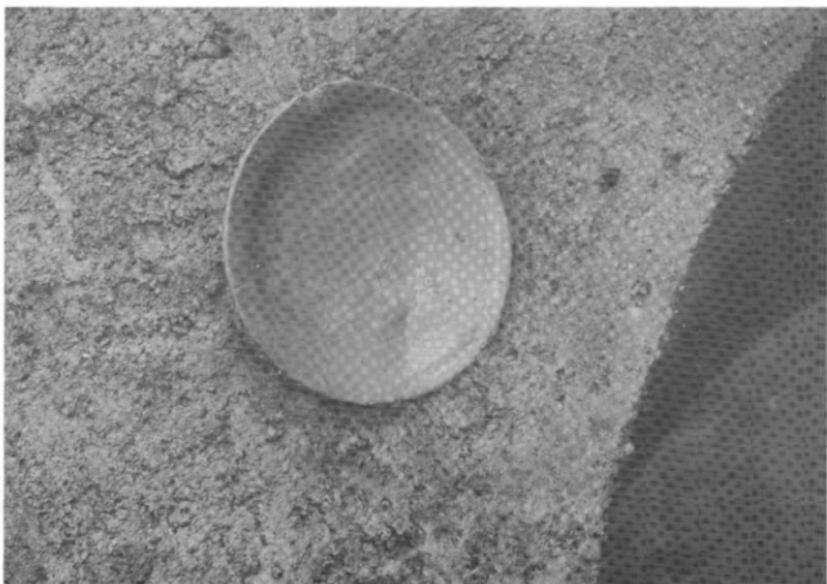
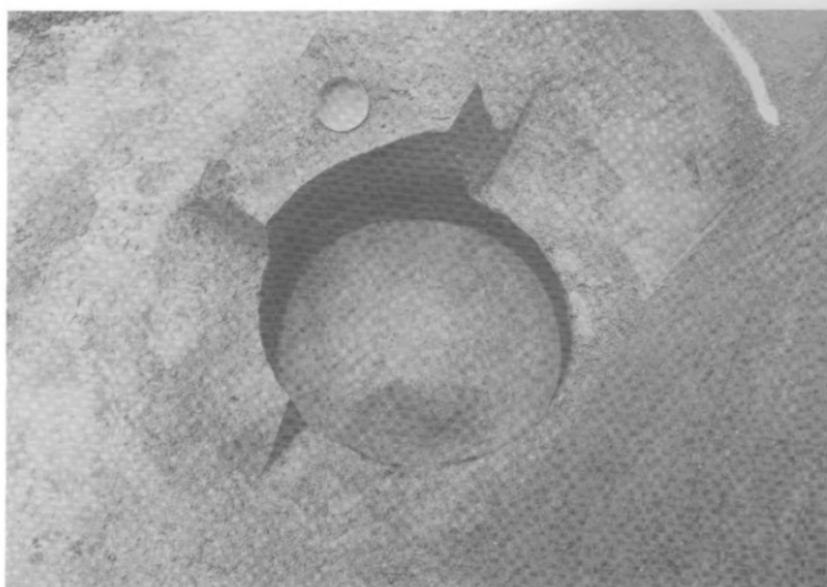
図版 1 奈良田遺跡調査区・遺構検出状況



図版 2 奈良田遺跡 曲物井戸検出・曲物井戸完掘状況



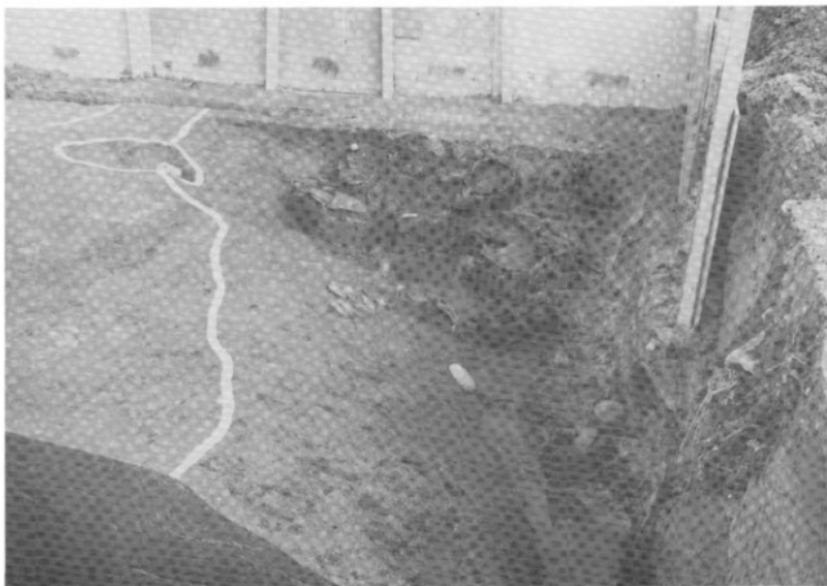
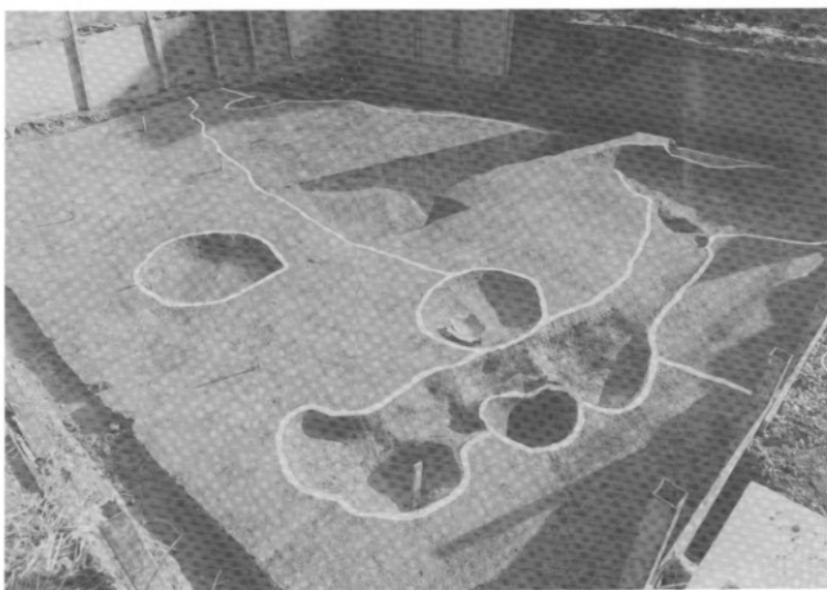
図版3 奈良田遺跡曲物井戸完掘・土器出土状況



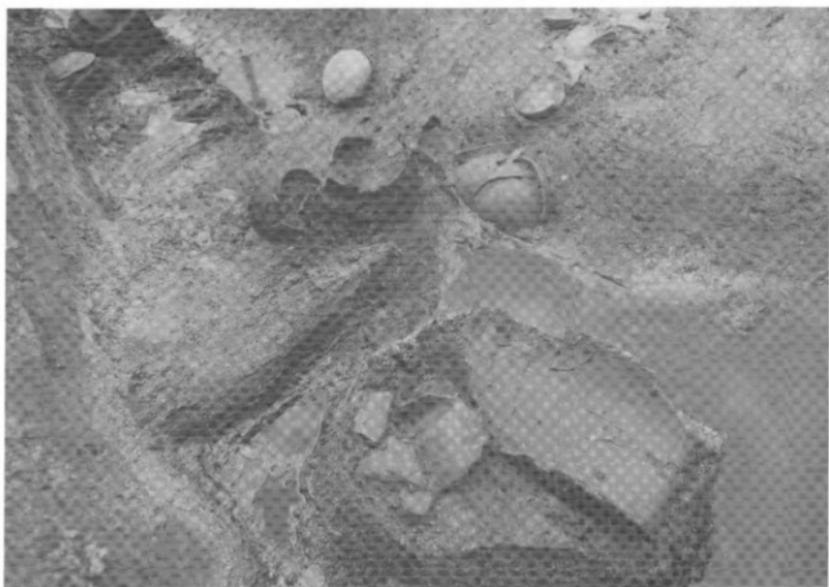
圖版 4 奈良田遺跡 石鎌出土狀況・曲物井戸内出土遺物



図版 5 奈良井遺跡 遺構完掘・大溝内土器出土状況



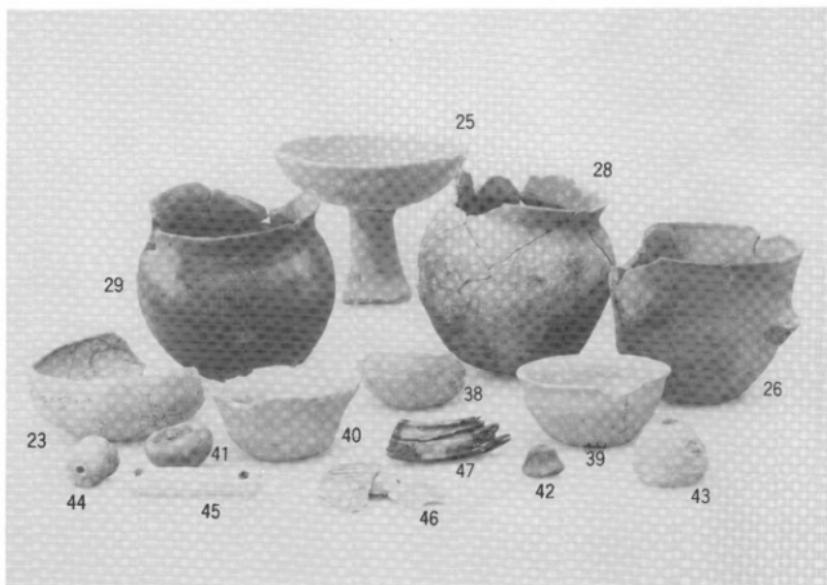
図版 6 奈良井遺跡 大溝内土器出土状況



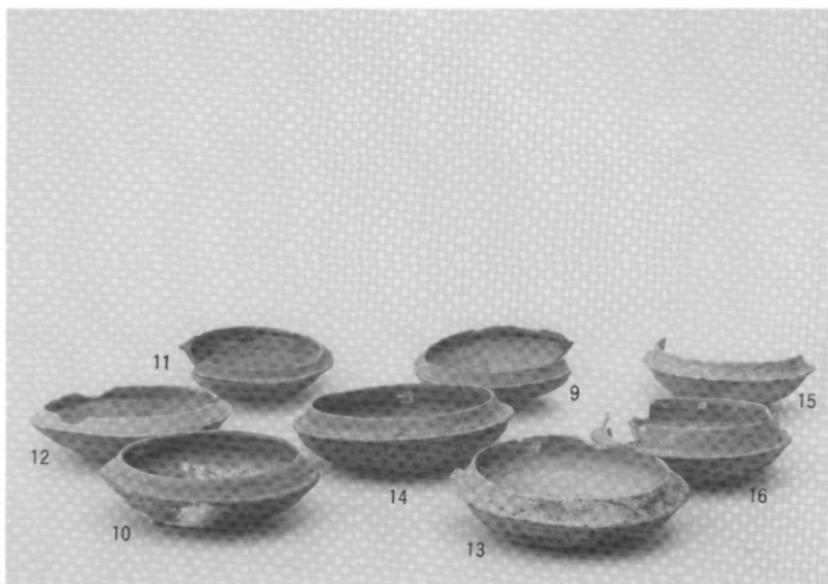
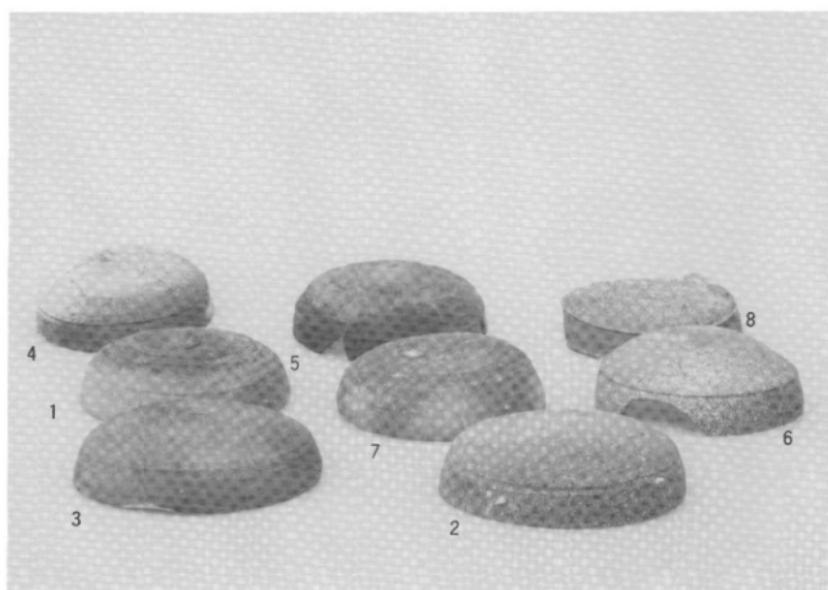
圖版 7 奈良井遺跡 大溝内土器出土狀況



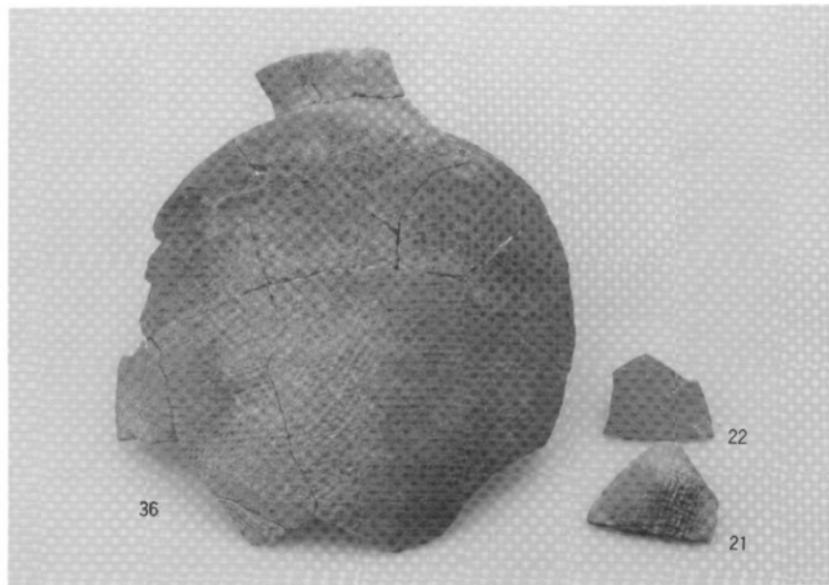
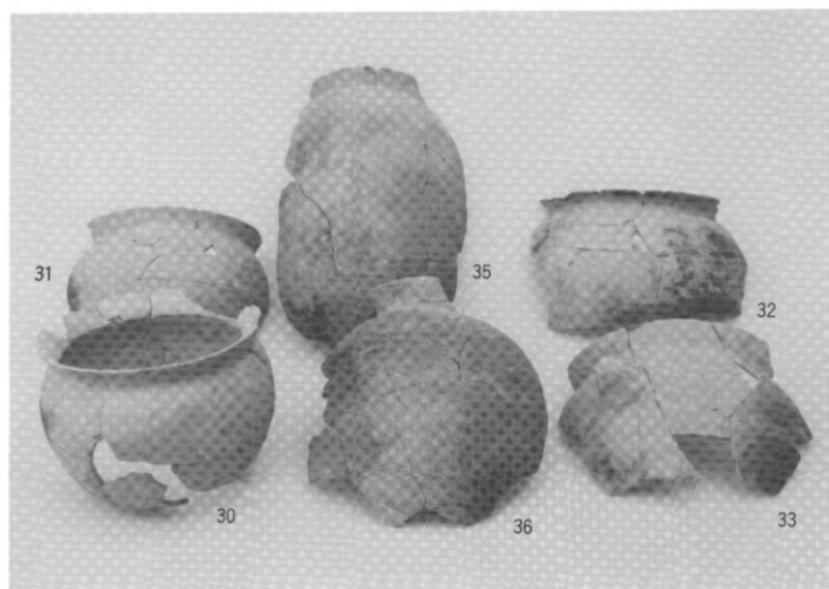
図版 8 奈良井遺跡 大溝内出土遺物



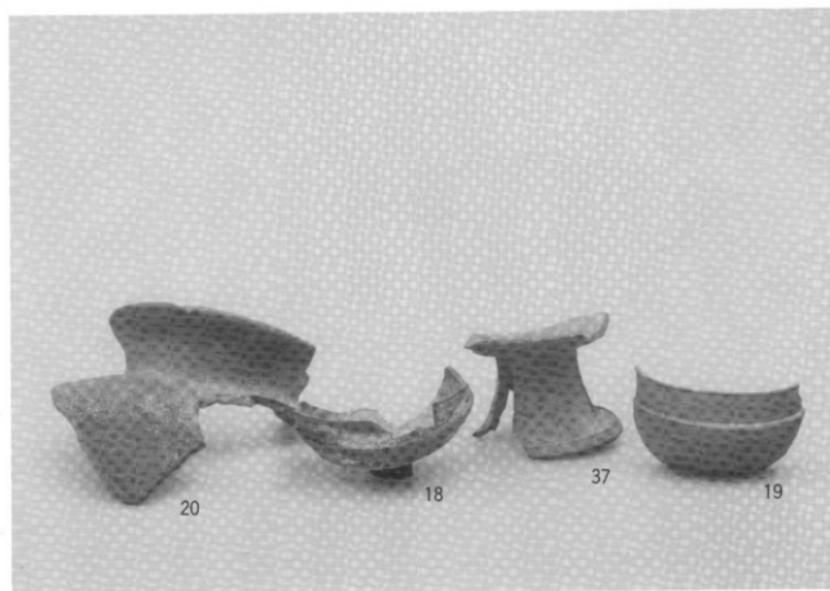
図版 9 奈良井遺跡 大溝内出土遺物



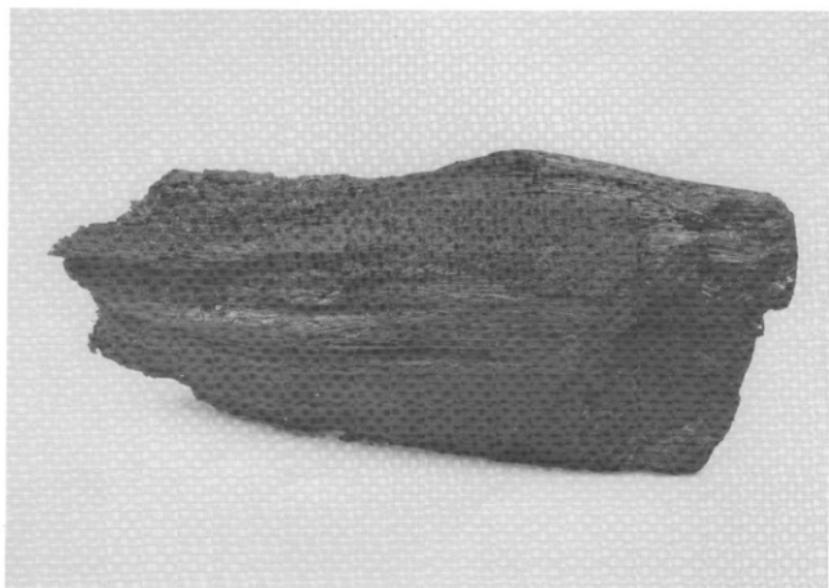
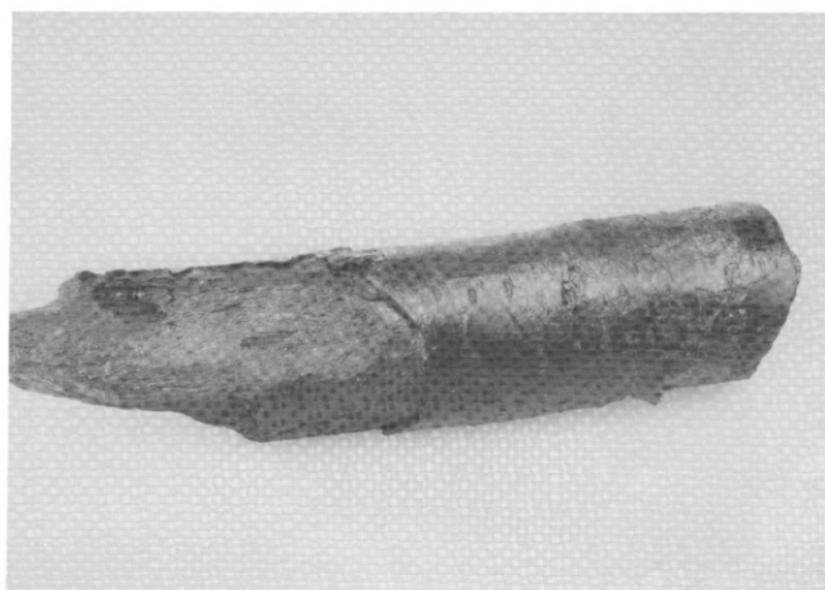
図版 10
奈良井遺跡 大溝内出土遺物



図版 11 奈良井遺跡 大溝内出土遺物



図版 12 奈良井遺跡 大溝内出土サクラ原木・焼木



国庫補助金事業に伴う

奈良田遺跡・奈良井遺跡
発掘調査概要報告書

平成12年3月発行

編集 四條畷市教育委員会

発行 四條畷市教育委員会
四條畷市中野本町1-1

印刷 加地企画印刷株式会社



イラスト：馬のまつり